

(主な内容)

○新型コロナウイルス感染症に関する意識調査 ..... 1  
 ○告知板..... 8

# 中央調査報

## 新型コロナウイルス感染症に関する意識調査

世論調査、市場調査の専門機関である一般社団法人 中央調査社(会長 境 克彦)は、「新型コロナウイルス感染症に関する意識調査」を実施しました。調査は、2022年3月11日から14日にかけて、無作為に選んだ全国の18歳以上の男女個人を対象に個別面接聴取法で行い、1,225人から回答を得ました。分析に際しては、前回調査との比較をするために、20歳以上の1,214人について結果をまとめました。質問項目は、「新型コロナウイルス感染症による生活への影響」「感染症対策の効果」「感染症に対する政府等の対応への評価」「感染収束について」です。主な調査結果は以下のとおりです。

### 1. 新型コロナウイルス感染症による生活への影響

日本での新型コロナウイルス感染症の感染が拡大して2年が経過した。感染拡大が生活に影響を与えたか聞いたところ、「非常に影響があった」と答えた人の割合が27.1%、「多少の影響があった」と答えた人の割合が47.4%で、合わせて74.5%が『影響があった』と回答している。一方、「あまり影響がなかった」と答えた人の割合が14.2%、「ほとんど影響がなかった」と答えた人の割合が4.0%で、これらを合わせた『影響がなかった』との回答は18.2%にとどまる。「どちらともいえない」は6.7%だった。

1年前の調査でも同じ質問をしている。『影響があった』は前回79.4%から4.9ポイントの低下となっており、そのうち「非常に影響があった」が前回35.6%から8.5ポイントの低下となっている。

性別では余り差は見られない。

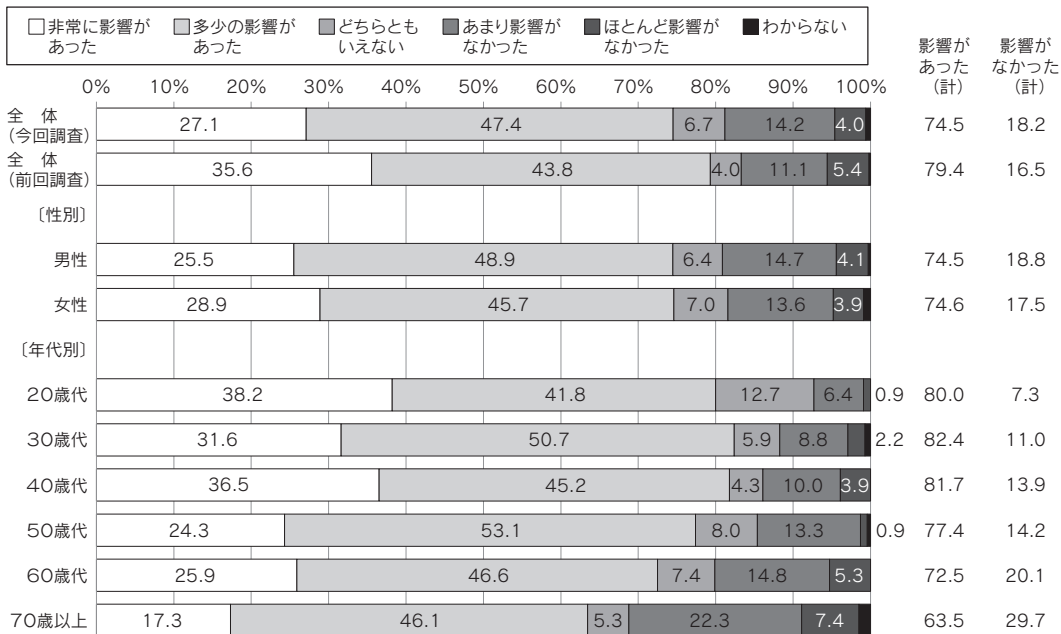
年齢別に見ると、『影響があった』は70歳以上

の63.5%から年代が下がるに従って高くなり、40歳代以下で8割台となっている。そのうち、「非常に影響があった」の割合は20歳代と40歳代で他の年代より高く3割台後半となっている。一方、『影響がなかった』は年代が高くなるほど割合も高くなり、60歳代で20.1%、70歳以上で29.7%となっている。【図表1】

次に、生活に『影響があった』と回答した人にどのような影響があったかを聞いたところ、「外出しなくなった」が最も高く75.4%、次いで「親族や友人との交流が減った」が74.7%となっている。以下、「家族が家にいる時間が長くなった」(37.2%)、「支出を抑えるようになった・買い物控えるようになった」(34.5%)が3割台、「子供の学校や保育園が休校・休園した」(24.6%)、「収入や売上げが減った」(22.0%)、「精神的に落ち着かなくなった」(21.5%)が2割台となっている。

前回調査と比較すると、「親族や友人との交流

図表1 新型コロナウイルス感染症による生活への影響



が減った」が前回68.6%より6.1ポイントの増加、「収入や売上げが減った」が前回27.2%より5.2ポイントの減少となっている。

性別に見ると、「親族や友人との交流が減った」「支出を抑えるようになった・買い物を控えるようになった」「子供の学校や保育園が休校・休園した」「精神的に落ち着かなくなった」は、男性より女性で高くなっている。「在宅勤務になった・在宅勤務が増えた」は女性より男性で高くなっている。

年代別に見ると、「親族や友人との交流が減った」は40歳代で高く、「家族が家にいる時間が長くなった」「子供の学校や保育園が休校・休園した」は30歳代と40歳代で高くなっている。「収入や売上げが減った」は20歳代で高くなっている。「精神的に落ち着かなくなった」は60歳代以上で高く、「在宅勤務になった・在宅勤務が増えた」は50歳代以下で高くなっている。【図表2】

## 2. 感染症対策の効果

新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチン接種、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置のそれぞれについて効果があったと思うか

どうか聞いたところ、ワクチン接種が『効果があった』と答えた人は83.6%（「十分効果があった」38.5%と「まあ効果があった」45.1%の合計）と多数が効果を感じている。次いで緊急事態宣言が『効果があった』と答えた人は62.6%（「十分効果があった」14.2%と「まあ効果があった」48.4%の合計）と6割強が効果を感じている。一方、まん延防止等重点措置が『効果があった』と答えた人は40.9%（「十分効果があった」6.5%と「まあ効果があった」34.4%の合計）にとどまっている。【図表3】

性別にみると、緊急事態宣言について『効果があった』と答えた人の割合は男性よりも女性で高くなっている。

年代別にみると、ワクチン接種と緊急事態宣言について『効果があった』と答えた人の割合は60歳代で最も高く、年代が下がるに従って低くなっている。まん延防止等重点措置について『効果があった』と答えた人の割合は30歳代で最も低く22.1%、70歳以上で最も高く53.6%と差が大きくなっている。いずれも若年層と高齢層で効果の感じ方に開きがある。【図表4】

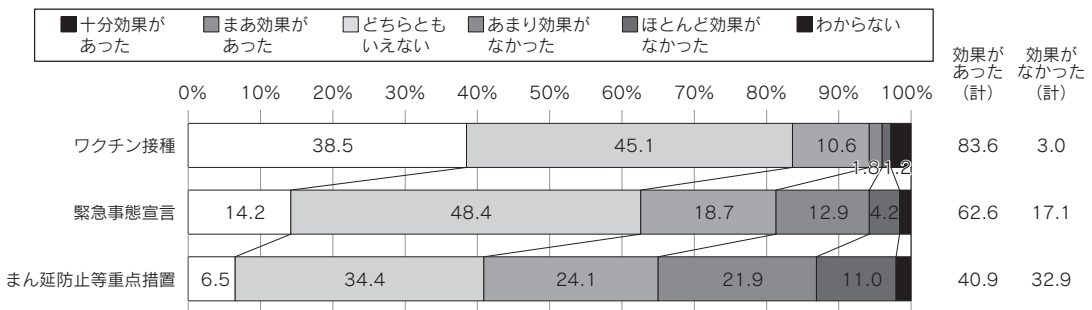
図表2 影響があったこと

	外出しなくなった	親族や友人との交流が減った	家族が家にいる時間が長くなった	支出を抑えるようになった・買い物控えるようになった	子供の学校や保育園が休校・休園した	収入や売り上げが減った	精神的に落ち着かなくなった
全体（今回調査）	75.4	74.7	37.2	34.5	24.6	22.0	21.5
全体（前回調査）	76.0	68.6	38.8	34.6	26.9	27.2	18.3
〔性別〕							
男性	73.1	70.2	34.9	31.0	20.9	23.2	17.7
女性	78.0	79.9	40.0	38.5	28.9	20.6	26.1
〔年代別〕							
20歳代	60.2	75.0	33.0	27.3	10.2	30.7	19.3
30歳代	72.3	77.7	47.3	26.8	46.4	17.0	17.9
40歳代	80.3	83.0	46.8	38.8	52.7	22.9	18.1
50歳代	73.1	71.4	34.9	36.6	18.9	27.4	20.0
60歳代	76.6	70.1	28.5	39.4	7.3	21.9	27.0
70歳以上	80.0	71.2	32.7	32.7	9.8	15.6	25.4

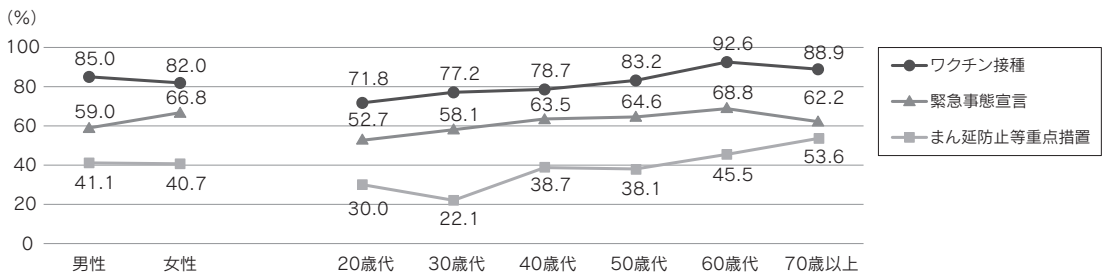
  

	在宅勤務になった・在宅勤務が増えた	家族と口論やいさかいが多くなった	自分や家族が新型コロナウイルスに感染した	勤め先が倒産した・失業した・廃業した	転職した	その他	わからない
全体（今回調査）	14.1	6.4	5.2	2.7	2.5	3.1	0.1
全体（前回調査）	13.6	4.9	0.7	1.9	2.4	7.0	0.2
〔性別〕							
男性	16.6	6.0	4.7	2.3	2.3	3.1	0.2
女性	11.2	6.9	5.7	3.1	2.9	3.1	-
〔年代別〕							
20歳代	19.3	3.4	6.8	4.5	8.0	4.5	-
30歳代	18.8	8.9	8.0	2.7	5.4	0.9	-
40歳代	21.3	8.5	3.7	2.1	3.2	3.2	-
50歳代	21.1	7.4	6.3	3.4	1.7	4.0	0.6
60歳代	8.0	5.8	2.9	3.6	0.7	3.6	-
70歳以上	1.0	3.9	4.9	1.0	-	2.4	-

図表3 感染症対策の効果



図表4 感染症対策の効果—『効果があつた』と答えた人の割合（性別・年代別）



### 3. 新型コロナウイルス感染症に対する対応

新型コロナウイルス感染症に対する政府、地方自治体、医療機関の対応を「まったく評価できない」を0、「十分評価できる」を10として評価してもらい、それを得点として平均スコアを算出したところ、医療機関の対応についての評価が最も高く7.40、次いで地方自治体の対応に対する評価が5.71、政府の対応に対する評価が5.21となっている。報道機関・マスコミの対応に対する評価は4.93となっている。

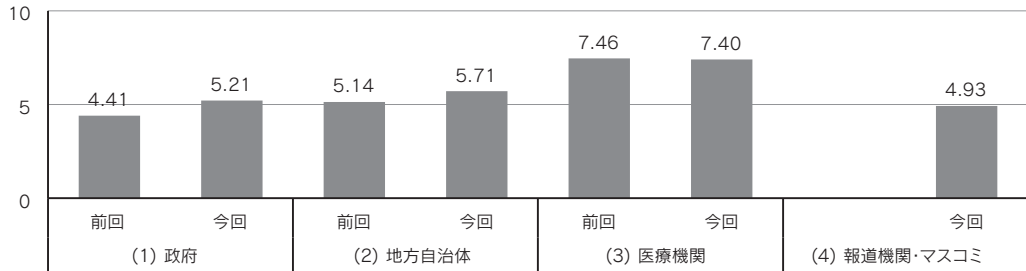
前回調査と比較すると、最も評価の高い医療

機関は前回からほぼ変化がなかった。政府と地方自治体への評価は、政府が0.80、地方自治体が0.57、それぞれ上昇している。なお、マスコミ・報道機関は前回調査では質問していなかった。【図表5】

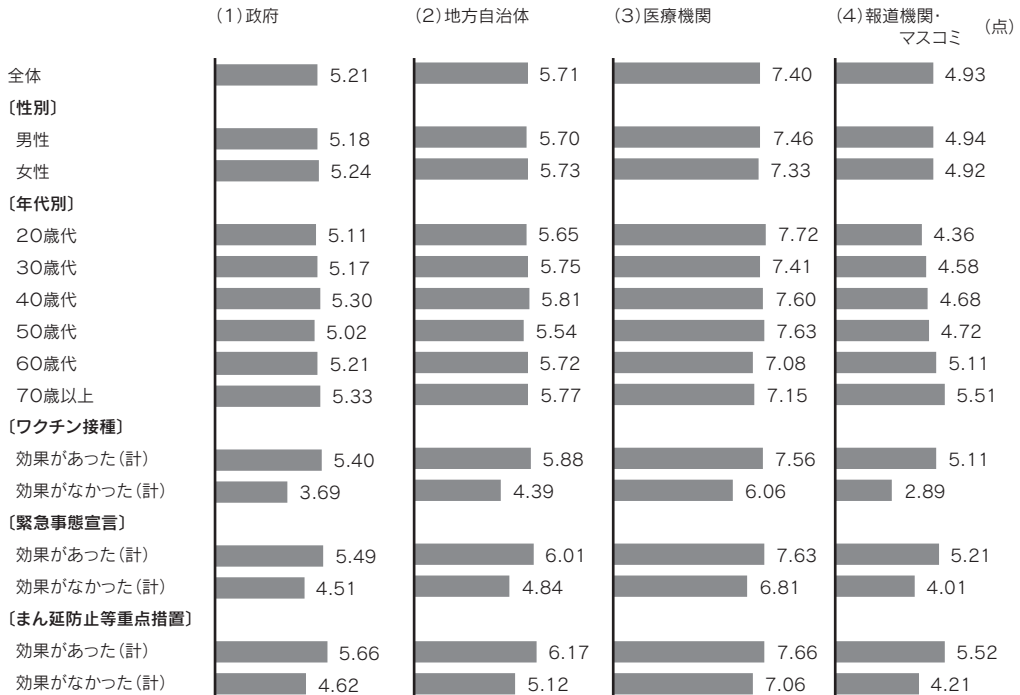
性別では、男女でそれほど差は見られない。

年代別に見ると、政府、地方自治体への評価は40歳代と70歳以上で比較的高く、50歳代で最も低くなっている。医療機関に対する評価は60歳代以上に比べ50歳代以下で高くなっている。報道機関・マスコミに対する評価は20歳代の4.36

図表5 新型コロナウイルス感染症に対する対応の評価（平均スコア・前回比較）  
(点)



図表6 新型コロナウイルス感染症に対する対応の評価（平均スコア・属性別）



から70歳以上の5.51にかけて、年代が高くなるほどスコアも高くなっている。

「ワクチン接種」「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」に効果があったかを尋ねた質問の結果を見ると、いずれも「効果があった」と回答した人の方が「効果がなかった」と回答した人より平均スコアが高くなっている。【図表6】

#### 4. 感染の収束について

コロナ禍が収束して、コロナ禍以前の状態に戻るまでの期間を聞いたところ、「収束後、3か月ぐらいで戻る」と答えた人の割合が3.5%、「収束後、6か月ぐらいで戻る」が8.8%、「収束後1年ぐらいで戻る」が22.6%、「収束後2～3年ぐらいで戻る」が33.2%、「収束後4～5年ぐらいで戻る」が10.2%となっている。「6年以上たってもコロナ禍以前の状態には戻らない」と答えた人の割合が14.3%、「わからない」が7.5%となっ

ている。収束後1年ぐらいいまでに戻ると回答した人が34.8%で、収束後2年以上かかると回答した人が57.7%と上回っている。

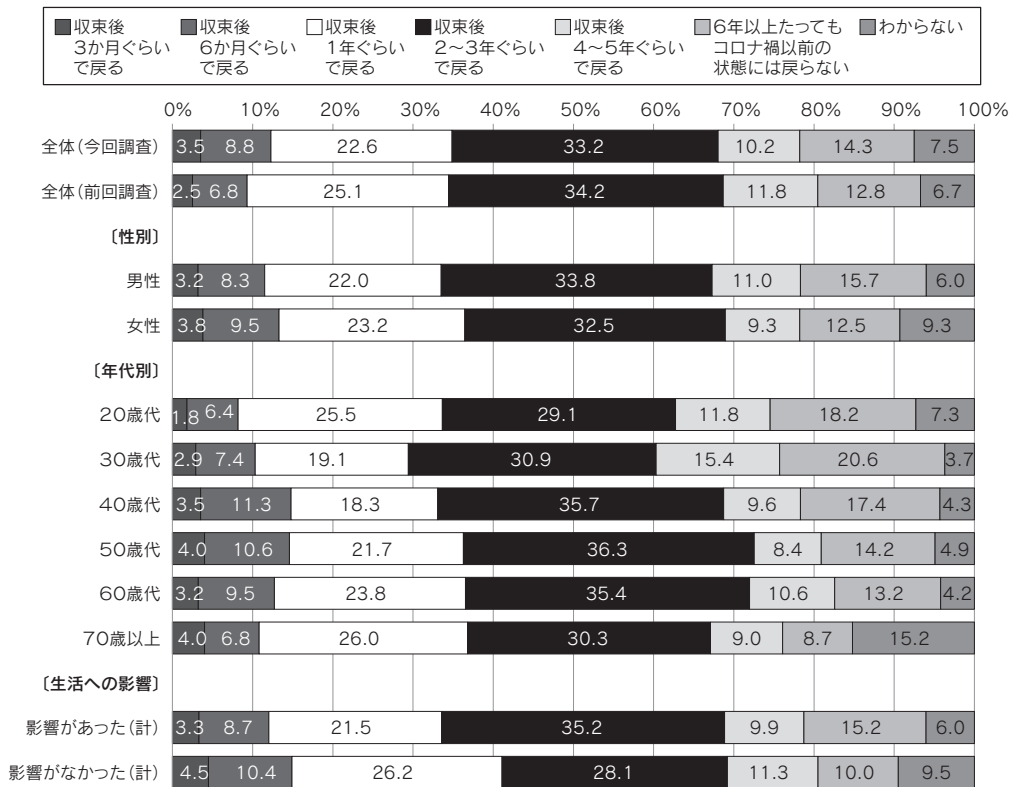
前回調査と比較すると、「収束後1年ぐらいいまでに戻る」が2.5ポイント減少した変化が最も大きく、余り変化は見られない。

性別では余り差が見られない。

年代別に見ると、「収束後4～5年ぐらいいまでに戻る」「6年以上たってもコロナ禍以前の状態には戻らない」と答えた人の割合が30歳代で他の年代に比べ高くなっている。

新型コロナウイルス感染症による生活への影響の有無別に見ると、「影響があった」と回答した人で「収束後2～3年ぐらいいまでに戻る」「6年以上たってもコロナ禍以前の状態には戻らない」と答えた人の割合が「影響がなかった」と回答した人より高くなっている。【図表7】

図表7 コロナ禍が収束して、コロナ禍以前の状態に戻る年月



図表8 コロナ禍が収束したらやってみたいこと、したいこと(上位10位)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
全体(今回調査)	国内旅行に行く 65.2	家族や友人との外食 59.9	イベントやコンサートに行く 32.5	家族や友人との家での会食・パーティー 30.4	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 27.8	街でのショッピング 27.3	海外旅行に行く 24.6	スポーツ観戦に行く 21.7	カラオケに行く 16.0	車を購入する、買い替える 2.3	
全体(前回調査)	国内旅行に行く 64.4	家族や友人との外食 62.7	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 32.6	街でのショッピング 32.4	イベントやコンサートに行く 31.6	家族や友人との家での会食・パーティー 31.3	海外旅行に行く 24.1	スポーツ観戦に行く 20.6	カラオケに行く 18.4	転職する・就職する 2.4	
〔性別〕											
男性	国内旅行に行く 62.2	家族や友人との外食 54.6	家族や友人との家での会食・パーティー 27.8	イベントやコンサートに行く 27.1	スポーツ観戦に行く 26.6	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 24.5	海外旅行に行く 22.5	街でのショッピング 21.1	カラオケに行く 15.7	車を購入する、買い替える 3.7	
女性	国内旅行に行く 68.8	家族や友人との外食 66.1	イベントやコンサートに行く 38.8	街でのショッピング 34.5	家族や友人との家での会食・パーティー 33.4	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 31.8	海外旅行に行く 27.1	カラオケに行く 16.3	スポーツ観戦に行く 16.1	転職する・就職する 1.4	
〔年代別〕											
20歳代	国内旅行に行く 60.9	家族や友人との外食 51.8	イベントやコンサートに行く 43.6	海外旅行に行く 36.4	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 35.5	家族や友人との家での会食・パーティー 28.2	街でのショッピング 25.5	カラオケに行く 23.6	スポーツ観戦に行く 20.0	転職する・就職する 5.5	
30歳代	国内旅行に行く 76.5	家族や友人との外食 60.3	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 50.7	イベントやコンサートに行く 48.5	海外旅行に行く 36.8	家族や友人との家での会食・パーティー 35.3	スポーツ観戦に行く 29.4	街でのショッピング 28.7	カラオケに行く 19.9	車を購入する、買い替える 2.2	転職する・就職する 2.2
40歳代	国内旅行に行く 71.7	家族や友人との外食 65.7	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 45.7	家族や友人との家での会食・パーティー 40.4	イベントやコンサートに行く 38.7	海外旅行に行く 33.9	スポーツ観戦に行く 27.4	街でのショッピング 26.5	カラオケに行く 20.9	車を購入する、買い替える 2.6	
50歳代	家族や友人との外食 62.4	国内旅行に行く 61.1	イベントやコンサートに行く 37.2	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 30.5	家族や友人との家での会食・パーティー 30.1	スポーツ観戦に行く 26.1	海外旅行に行く 23.5	街でのショッピング 22.1	カラオケに行く 16.8	車を購入する、買い替える 2.7	
60歳代	国内旅行に行く 74.6	家族や友人との外食 58.2	街でのショッピング 34.4	イベントやコンサートに行く 27.0	家族や友人との家での会食・パーティー 25.9	海外旅行に行く 20.1	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 16.9	スポーツ観戦に行く 16.9	カラオケに行く 10.1	車を購入する、買い替える 2.6	
70歳以上	家族や友人との外食 57.6	国内旅行に行く 54.8	街でのショッピング 27.2	家族や友人との家での会食・パーティー 24.8	イベントやコンサートに行く 17.3	スポーツ観戦に行く 14.9	海外旅行に行く 12.4	カラオケに行く 11.1	テーマパークや遊園地、動物園などに行く 7.4	車を購入する、買い替える 1.5	

最後にコロナ禍が収束したらやってみたいこと、したいことを聞いたところ、「国内旅行に行く」を挙げた人の割合が65.2%、次いで「家族や友人との外食」が59.9%となっている。以下、「イベントやコンサートに行く」(32.5%)、「家族や友人との家での会食・パーティ」(30.4%)、「テーマパークや遊園地、動物園などに行く」(27.8%)、「街でのショッピング」(27.3%)、「海外旅行に行く」(24.6%)、「スポーツ観戦に行く」(21.7%)が2割以上となっている。

前回調査と比較すると、「国内旅行に行く」「家族や友人との外食」は、前回調査同様、今回調査でも上位2位に挙げられている。「テーマパークや遊園地、動物園などに行く」が前回32.6%から4.8ポイント低下している。

性別に見ると、男女とも「国内旅行に行く」「家族や友人との外食」が上位2位に挙げられているが、その割合は男性より女性の方が多くなっている。3位以下では、「スポーツ観戦に行く」は男性の方が多いが、他の項目は女性の方が多くなっている。

年代別に見ると、すべての年代で「国内旅行に行く」「家族や友人との外食」が上位2位に挙げられている。「イベントやコンサートに行く」「海外旅行に行く」は、年代が低いほど割合が高くなる傾向が見られる。【図表8】

以上、新型コロナウイルス感染症に関する人々の意識を見てきたが、1年前の調査から大きな変化は見られなかった。感染状況に劇的な改善が見られることがなく1年が経過した。ワクチン接種もこの1年で進んできてはいるが、ウイルスが変異を繰り返し、生活の状況は変わっていないと言えるだろう。そのような中でもワクチン接種、緊急事態宣言には効果があったと感じており、そのことが政府や地方自治体への評価にもつながっている様子がうかがえる。また、収束後に旅行や外食をしたいという要望を半数以上の方が挙げている半面、コロナ禍が収束しても簡単には元に戻らないという意識を持っていることが明らかになった。

**調査の概要**

- 調査地域  
全国
- 調査対象  
満18歳以上男女個人(2,000人)
- サンプリング法  
層化副次(二段)無作為抽出法
- 調査方法  
調査員による個別面接聴取法
- 実施時期  
2022年3月11日から14日
- 調査機関  
一般社団法人 中央調査社

**●回収サンプルの構成**

〈性別〉

総数	男性	女性
1,214	654	560
100.0%	53.9%	46.1%

〈年代〉

総数	20代	30代	40代
1,214	110	136	230
100.0%	9.1%	11.2%	18.9%
	50代	60代	70歳以上
	226	189	323
	18.6%	15.6%	26.6%

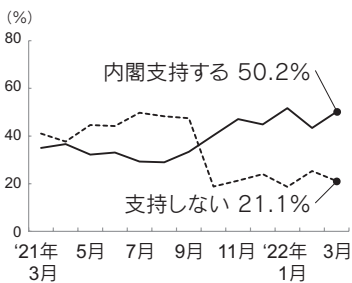
※ただし、18～19歳の回収数11は除く

### ◇ 告 知 板

#### 3月の時事世論調査

3月の時事世論調査によると、岸田内閣の支持率は前月から6.8ポイント増の50.2%、不支持率は4.2ポイント減の21.1%だった。ウクライナに侵攻したロシアに対する厳しい姿勢が一定の評価を集めたとみられる。

調査は全国18歳以上の男女2,000人を対象として3月11日から14日に実施、有効回収(率)は1,225(61.3%)だった。



#### この時期の国内の動きは、

藤井竜王、五冠達成：将棋の藤井聡太竜王(19)が、第71期王将戦の第4局で渡辺明王将(37)=名人・棋王と合わせ三冠=に勝ち、王位と叡王、棋聖を保持する藤井竜王は史上4人目の五冠を19歳6カ月の最年少で達成した(2月12日)。

高木美帆、メダル記録更新：北京冬季五輪スピードスケート女子1000メートルで高木美帆選手が優勝し、個人種目で初の金メダルを獲得した。今大会4個目のメダルで、オリンピック通算では7個目(金2、銀4、銅1)。男女通じて日本選手最多の冬季五輪メダル数と、夏季五輪を含めた日本女子最多のメダル数を共に1個ずつ更新した(2月17日)。

新築マンション価格、史上最高：不動産経済研究所が24日発表した2021年の全国新築マンション平均価格は5115万円(前年比2.9%増)で、5年連続で過去最高となった(2月24日)。

出生数、過去最少：厚生労働省が発表した2021年人口動態統計の速報値によると、出生数は84万2897人で6年連続の過去最少となった。死亡数は145万2289人。出生から死亡を引いた自然増減は60万9392人減で初

めて60万人を超えた(2月25日)。SMBC日興証券、幹部らを逮捕：東京地検特捜部は、SMBC日興証券社員らの相場操縦疑惑で、同社幹部4人を金融商品取引法違反(相場操縦)容疑で逮捕した。大手証券会社の幹部が相場操縦容疑で逮捕されるのは異例(3月4日)。

作家の西村京太郎さん死去：トラベルミステリーで人気を集めた作家、西村京太郎(本名・矢島喜八郎)さんが3日亡くなった。91歳だった。「十津川警部シリーズ」は国民の人気を博し、著作だけでなくテレビドラマにもファンが多い(3月6日)。

#### 国外では、

フランス、原子炉6基建設へ：フランスのマクロン大統領は新たに原子力発電所6基を仏国内に建設すると発表した。エネルギー自立と地球温暖化対策を新規建設の理由として挙げている(2月11日)。

自動車運搬船火災：独フォルクスワーゲン(VW)グループの約4000台を載せ、大西洋を航行していた運搬船で16日、火災が起きた。パナマ船籍で商船三井が所有・運航。ドイツを出港し、米国に向かっていった。同船は約2週間漂流し沈没した(2月19日)。

韓国の出生率、過去最低：韓国の2021年合計特殊出生率(1人の女性が生涯に産む子供の数、暫定値)は0.81で、前年の0.84から更に低下し過去最低となった。韓国統計庁が23日発表した。経済協力開発機構(OECD)加盟国で1を下回るのは韓国だけで、日本(20年=1.34)と比べても格段に低い(2月23日)。

ロシア、ウクライナ侵攻：ロシアのプーチン大統領は24日、テレビで演説し、ウクライナ東部での「特別な軍事作戦」の実施を決めたと発表し、ウクライナへの軍事侵攻を始めた。ウクライナ各地の軍事施設が空爆で破壊され、首都キエフの空港等を巡ってロシア軍とウクライナ軍が激しく戦闘した(2月24日)。

首席指揮者を解雇：ドイツ南部ミュンヘン市のライター市長

は、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者で、ロシア出身の著名指揮者ワレリー・ゲルギエフ氏を解雇した、と発表した。同氏はロシアのプーチン大統領との親交で知られる(3月1日)。

韓国、保守政権へ：韓国大統領選は9日投票票され、保守系の最大野党「国民の力」の尹錫悦(=ユンソクヨル)前検事総長が当選した。朴槿恵(=パククネ)政権以来、5年ぶりに保守系へと政権交代する(3月10日)。

政党支持率 自民党の支持率は前月から0.7ポイント増加して26.7%だった。以下、立憲民主党は0.5ポイント減の4.3%、日本維新の会は3.8%で変わらず、公明党は0.9ポイント増の4.4%、共産党は0.3ポイント増の1.6%、国民民主党は0.2ポイント増の1.2%だった。支持政党なしは3.4ポイント減少して54.0%だった。

#### 政党支持率 (上段：3月、下段：2月)

政党	3月 (%)	2月 (%)
自民党	26.7	26.0
立憲民主党	4.3	4.8
維新の会	3.8	3.8
公明党	4.4	3.5
国民民主党	1.6	1.3
共産党	1.2	1.0
その他	0.6	0.5
支持政党なし	54.0	57.4

国民の景気感 「良くなった」は前月より0.9ポイント増の3.3%、「悪くなった」は3.8ポイント増の57.3%だった。時事世論景気指数は7ポイント減少して13となり、4ヵ月連続の減少となった。

#### 時事世論景気指数

年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
2012年	97.2	143.8	129.1	126.0	120.0	131.9	130.0
2020年	45.8	22	19	-1	23	29	32
2022年	36	74	95	92	75	20	13

暮らし向き 昨年の今頃と比べて「楽になった」は前月から0.2ポイント減の2.4%、「苦しくなった」は4.2ポイント増の27.6%だった。